

熱中症予防への注意喚起等の実施について

令和7年6月の全国での熱中症搬送者数は1万7,229人で、昨年の2倍以上となり、調査を開始した平成22年以降最多を記録し、7月に入っても20日時点で2万2,479人と、6月を上回るペースとなっています。

県内においても、7月20日時点の熱中症搬送者数が706人に上り、平成20年の調査開始以降、最も多い搬送者数となった令和5年の同期間(5月1日から7月20日まで)と比較して200人多い状況となっています。さらに、7月25日、県内で今年初めて熱中症の疑いによる死者が確認されました。

また、全国での熱中症警戒アラートの発表回数は過去最多となっており、6月には福島県内の全観測点において月平均気温が更新されています。7月25日付けで仙台管区気象台から発表された「長期間の高温と少雨に関する東北地方気象情報」によれば、8月に向けて気温の高い状態が続く見込みとなっているほか、気象庁の3か月予報においても、向こう3か月の東北地方の気温は高い見込みとなっています。

このような状況から、今後も熱中症に対する厳重な警戒が必要であり、各部局におかれましては、下記のとおり改めて熱中症予防のポイントについて周知いただき、イベントや会議等を開催する際には熱中症予防対策を行っていただきますようお願いいたします。

記

1 対応内容

- (1) 以下の熱中症予防のポイントについて周知いただきたい。周知に当たっては、環境共生課のホームページ(気候変動適応>熱中症に関する情報、「ふくしま涼み処」について)に掲載されているチラシ等を適宜活用いただきたい。
 - ・ 部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を適切に使用すること
 - ・ こまめに水分を補給すること
 - ・ 涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けること
 - ・ 高齢者や子ども、障がいのある方には声かけを行うなど注意すること
 - ・ 熱中症警戒アラート発表時には外出をできるだけ控えて暑さを避けること
 - ・ 猛暑の際に一時休憩できる「ふくしま涼み処」を利用し暑さを避けること
- (2) 各部局において、イベントや会議等を開催する際には、室温が高温にならないよう留意するほか、スタッフ及び参加者に対し、こまめな水分の補給や休憩を促すなど、熱中症予防対策を行っていただきたい。

2 対象者

県民、事業者、関係機関(者)等

3 活動期間

7月28日(月)から9月30日(火)まで

(参考)

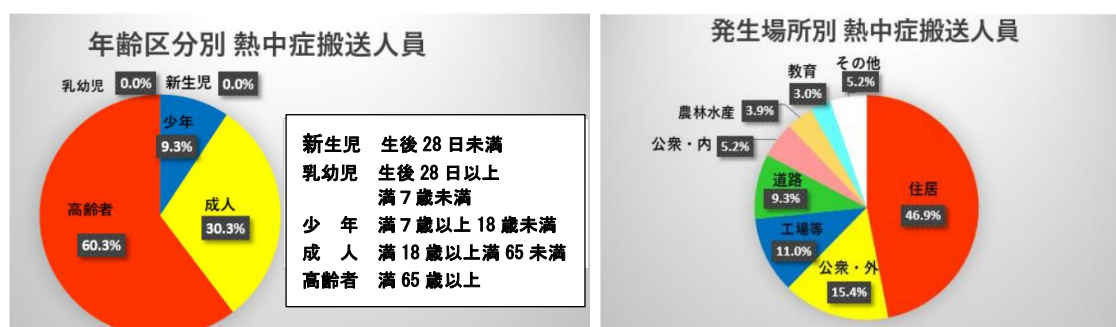
■令和7年度の福島県内及び全国の月別熱中症搬送者

月	5月	6月	7月 (7/20時点)	合計
福島県内の人数	71	295	340	706
全国的人数	2,614	17,229	22,479	42,322

■令和3年度から7年度における福島県内の熱中症搬送者（期間：5月1日～7月20日）

年度	R3	R4	R5	R6	R7
人数	342	666	506	433	706
(参考) 5/1～9/30の人数	919	1,282	1,840	1,296	—

■令和6年度の福島県内における年齢区分別及び発生場所別の熱中症搬送者割合



- ・ 年齢区分別では、高齢者（60.3%）が最も多く、次いで成人（30.3%）、少年（9.3%）、乳幼児（0.0%）の順となった。
- ・ 発生場所別の救急搬送人員をみると、住居（46.9%）が最も多く、次いで公衆（屋外）（15.4%）、工場等（11.0%）、道路（9.3%）、公衆（屋内）（5.2%）、教育（3.0%）、農林水産業（3.9%）、その他（5.2%）の順となった。

■熱中症警戒アラートの発令状況（全国）（集計期間：4/24～7/25）

年度	R3	R4	R5	R6	R7
回数	180	247	216	481	561
(参考)福島県内	2	0	2	2	2

■3か月予報による向こう3か月（8月～10月）の天候の見通し

